

## I 学校の概要

### 国際理解教育推進モデル校事業 まんのう町立満濃中学校

#### ◆生徒数及び教員数

○生徒数

第1学年	第2学年	第3学年	特別支援	全校
5学級 146名	5学級 140名	5学級 164名	4学級 21名	19学級 471名

○教員数 34名

#### ◆学校の特徴

素直な生徒、規範意識の高い生徒が多く、落ち着いた学校生活を送ることができている。新制服の導入や校則の改定に向け、性の多様性を理解し、学級会での多様な意見を取り上げた。学級委員、生徒会役員による生徒企画委員会での話し合いと、学級会を何度も往復し、最終的には生徒会役員による職員会での提案や生徒総会で共通理解を図るなど、生徒一人ひとりの意見を大切にしながら生徒会活動を進めている。また、昨年度の地域のボランティア活動にはのべ174名の生徒が積極的に参加しており、地域の大人と交流しながらふるさとの温かさやよさにふれることもできている。さらに、夏休みには15名程度の生徒が、シンガポールに数日間滞在し、現地の中学生と交流する町の国際交流協会主催のプログラムも今年度より再開する予定である。

## II 研究主題等

#### 研究主題

まんのう町の誇りや外国(人)への関心をもち、広い視野で異文化を理解するとともに、国際社会に生きる人間として望ましい態度や能力を育てる。

#### ◆研究主題設定の理由

令和5年度全国学力・学習状況調査生徒質問紙の「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答した3年生は62.9%であった。これは県64.9%、全国66.8%から下回っている。また、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいですか」は65.7%であり、県64.5%、全国63.2%と同程度であるものの、前回(平成31年度)の同調査74.1%と比べると大きく下降しており、内向的な傾向が見受けられる。そこで本校の恵まれた環境を最大限に活用し、これまでの教育活動の意義や価値について国際理解教育の視点から教師と生徒が再確認することで、充実した教育活動になるものと考え、本研究主題を設定した。

#### ◆研究内容及び方法

- ① 英語科において月1回のオンラインでの英会話を実施し、英語によるコミュニケーション能力を育成する。単なる英会話で終わらないように事前・事後指導を充実させる。
- ② 総合的な学習の時間には、ふるさとまんのう町について情報を収集して課題を把握し、改善策を考える時間を位置付ける。さらに、地域の人々に提案できる機会を計画する。また、公民館等の行事におけるボランティア活動について報告する場を設ける。

- ③ 年間2回の人権旬間では、縦割り学級編成で授業を実施し、異学年の生徒との意見交流を通して、自分の考えを深めさせる。
- ④ 町の海外派遣事業を利用し、シンガポールでの生活やコミュニケーションを体験し、まんのう町の文化を現地の人々に紹介させる。また、学んだことを全校生に広める手立てを工夫する。

### Ⅲ 成果の評価計画（検証方法）

以下の11の項目について、校内アンケートを3回（4月、11月、2月）実施し、変容をみる。

<生徒>

- ・ 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。
- ・ 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。
- ・ 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していますか。
- ・ 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- ・ 各教科等で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。
- ・ 今住んでいる地域の行事に参加していますか。
- ・ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。
- ・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
- ・ 将来の夢や目標を持っていますか。

<教員>

- ・ 互いの「違い」を「違い」として認め合い多様な価値観を受容しながら共に生きようとする意欲や態度を培う「多文化共生」を育む視点で指導に当たっているか。
- ・ 教科の授業時間だけでなく、様々な時間で国際理解教育の要素を意識して指導に当たっているか。

### Ⅳ 研究成果の普及方法

町立図書館や町内公民館に、生徒が作成した成果物や本研究におけるまとめ等を展示してもらい、町民に広く周知する。また、満濃中学校ホームページにも取組の概要を掲載する。さらに、令和6年12月26日に開催される香川の教育づくり発表会において県内の小・中学校にも提案する。